



同志社大学の ノーマライゼーション方策

同志社大学



本日お話すること

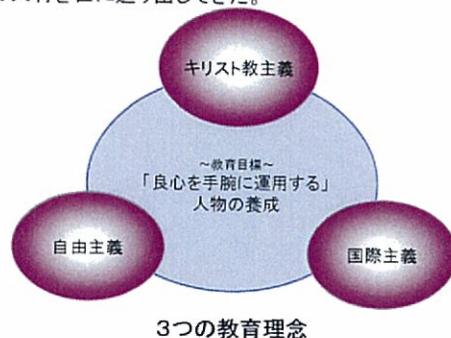
- ①大学の概要
- ②学生支援の取組
- ③障がい学生支援制度の紹介



I 大学の概要①

建学の精神と新島襄

同志社大学は、1875年に新島襄によって、その前身となる同志社英学校が設立されたことに始まる。新島襄は江戸時代末期に国禁を犯してアメリカに渡り、帰国した後、キリスト教主義を徳育の基本とする大学の設立を目指した。以来、同志社大学は「**キリスト教主義**」「**自由主義**」「**国際主義**」の3つの教育理念を掲げ、「**良心を手腕に運用する**」人物の育成を教育の目標とし、多くの人材を世に送り出してきた。



I 大学の概要②

同志社大学の規模

教学組織は9学部11研究科で構成されており、学生数約25,000人、専任教員数614人である。

1986年には京田辺市にキャンパスを開校し、現在は政策学部を除く文系学部の1・2年次生と文化情報学部、工学部の学生約12,000人が学び、政策学部1～4年次生と他の文系3・4年次生の学生約13,000人が今出川キャンパスで学んでいる(2007年5月1日現在)。

教学組織	9学部11研究科
学生数	25,755人
専任教員数	614人
2つのキャンパス	今出川キャンパス(京都市上京区) 京田辺キャンパス(京都府京田辺市)



Ⅱ 学生支援の取組①

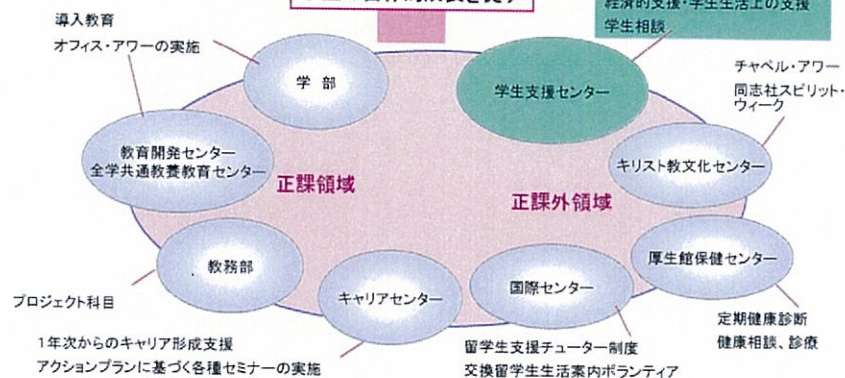
本学の学生支援体制

「一国の良心」といべき人物の養成

学生の自立的成長を促す

障がい学生支援(制度)

びあアドバイザー／びあメンター
各種課外プログラム
課外活動支援(クラブ・サークル)
経済的支援・学生生活上の支援
学生相談



Ⅱ 学生支援の取組②

学生支援センターの取組

90年代後半より、学生を取り巻く環境の変化に対応

①学生対応 ➡ 学生支援

②【団体支援】重視

(伝統的支援策としての「課外活動支援」)

<有効性>

- 自主性の涵養
- 集団の中での他者理解の促進
- 帰属意識の向上 など

【個人支援】をも重点支援(課外プログラム群)



Ⅱ 学生支援の取組③

「課外プログラム」(個人支援)

- [学生個人の成長]
(批判的思考力、問題解決能力、差異の認識力、意思決定力、市民性等)
- [他者との関係性の構築]
(自己のアイデンティティ、必要と(する)されること、想像力)
- [コミュニティの形成プロセスと展開]
(一般学生、教員、他大学生、地域社会)

[機会創出] ⇒ [情報提供] ⇒ [指導] ⇒ [励まし]

⇒ [評価] ⇒ [シェア/一般化] ⇒ [他プログラム展開]



Ⅱ 学生支援の取組④

学生支援センターの提供する課外プログラム(例示)

サービス型	キャンパス内のホールを利用した 「映画上映」「コンサート」「芝居公演」	
教養型	各界から著名人や各ジャンルの専門家を招聘しての 「アッセンブリー・アワー」「教養講座」「各種講習会」	
体験型	教職員スタッフも参加しての体験型プログラム 「函館キャンプ」(校祖新島の足跡を辿る) 「自然の中でのアウトドア体験」(四万十川・富士山) 「演劇・合唱等の参加型ワークショップ」	
コミュニティ 形成型	キャンパス内でのコミュニティ形成に関わるプログラム 「challengedキャンプ」 「ホールアート」	
啓発型	判断力・コミュニケーション力等を養うためのセミナー等 「S-Cubeセミナー」 「キャンパス・コミュニティー・ビルディング・プロジェクト」	



Ⅲ 障がい学生支援制度①

<目的>

○障がい学生が健常学生と等しい条件下で教育を受けられること

<支援内容(講義保障を中心として)>

○聴覚障がい学生

ノートテイク、PC通訳、手話通訳、ビデオ字幕付けなど

○視覚障がい学生

ガイドヘルプ、点訳、拡大コピー、対面朗読など

○肢体不自由学生

車椅子介助、代筆、トイレ介助、食事介助など

<本学の特徴>

○支援する・受ける双方の「自律的成長の場」

○気づきや学びを学内外の「コミュニティに還元」



Ⅲ 障がい学生支援制度②

講義保障を中心とした支援以外の取組

正課領域

- ・「教職員のためのガイド」
- ・「学生向けガイド」
- ・「障がい学生・支援スタッフ・教職員による懇談会」
- ・「教職員対象研修会」
- ・正課科目
- 『「心のバリアフリー」をめざして
-障がい学生支援の視点を通して-』



正課外領域

- ・「入学式」
(手話通訳者、PC通訳者配置)
- ・「卒業式」
(手話通訳者配置)
- ・「ランチタイム手話」
- ・「challengedキャンプ」
- ・障がい学生や支援スタッフのための「貸出BOX」





Ⅲ 障がい学生支援制度③

「challengedキャンプ」

●このキャンプでの体験

- ①「アイマスクを利用したブラインド体験」
- ②「声のないコミュニケーション体験」
- ③「車椅子体験」



「学びと心のバリアフリー」

Challengedキャンプ 2008
～ユニバーサルバリアフリーを目指して～



まとめ

①

＜学生支援センターの「障がい学生と学内連携部署の核」としての明確化＞

→大学一体となったノーマライゼーションの方向性明示

②

＜学生支援方策の継承＞

→「学生が学生を巻き込む」「経験を得た学生が他の学生を支援」。もって大学コミュニティの自覚的形成



ご清聴ありがとうございました

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support2/shogai/>